

# 淡海観光ガイドの友

## 第46号

発行日 令和6年10月1日

発行 淡海観光  
ボランティアガイド  
連絡協議会

### 令和6年度の全体交流会にあたって



淡海観光ボランティアガイド連絡協議会  
会長 森島和男

昨年、4年ぶりに近江八幡市で全体交流会が開催され、今年は湖東ブロック主催のもと、豊郷の文化会館において、彦根市長、豊郷町長をお迎えして、約380名の会員が集い盛大に行われました。内容は、開会式典のあと、「江戸時代の近江の街道」の講演会があり、午後から会場別に分かれて研修会が行われ、無事終了いたしました。交流会の設営運営にあたられました湖東ブロックの皆様には厚く御礼申し上げます。

全体の交流会は、コロナの影響で一時中断がありましたが、長年続けてこられた交流会は、県内の観光ボランティアガイドが一堂に集まる大きな行事です。全国的に見ても一堂に集うことは珍しく、県内のボランティアガイドの意識向上に意義あるものと思っております。

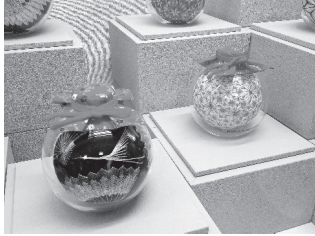
連絡協議会の結成から年月が経ち、その間に社会情勢も大きく変わり、全体交流会の開催に苦労が多く増えています。各ブロック及び会員の皆さんの努力もあり、これまで継続してこられました。引き続き全体の交流会を行ってゆくために、会員の皆さんと知恵を出しあって継続していきたく思います。

観光ボランティアガイドは、全国的にも観光事業者から地域の観光事業に欠かせないものと述べておられます。ボランティアガイドの期待が大きいことがうかがえます。当連絡協議会も会則が示す通り、会員相互の連絡調整を図りながら、ボランティアガイド活動が滋賀県の観光事業に寄与し、さらに連絡協議会が発展することを祈念いたします。

# 令和6年度 交流研修会報告

## ◆ 中山道愛知川宿コース

米原観光ボランティアガイド協会 北村 哲雄



このコースには私達のほか、竜王町、高島市の3 VG協会がお世話になり、それぞれコースを変えて徒歩での学習をしました。

私たちを担当していたいたのは3名の愛荘町 VG協会の方で、どなたもはっきりとゆったりと説明され、また知識も豊富で納得のガイドでした。

ここは中山道65番目の宿場とはいえかつての面影はほとんど失われている感じです。

最初に訪れたのは「びんてまりの館」。大きな手塚がフラスコ型の小さなピン口からどうして入るのか、そのカラクリの説明を受けて一同納得。この滋賀県伝統的工芸品は県民の誇りでもあります。次が「ゆめまちテラスえち」。建物は旧愛知郡役所で近畿でも唯一

無二の大正建築だそうです。その1階の展示が近江上布という麻織物で、これまた国の伝統的工芸品。織機の駆動と共に職員の方の滔々たる説明に納得第二弾でした。

中山道に威容を誇るのが「竹平楼」。いきなりガイドさんが♪お富さん♪ののど自慢。見ると見越しの松が門を覆い優雅の風情。ここは元旅籠屋で、明治11年岩倉具視や大隈重信らを率いた明治天皇が休憩されたという。御座所も残され庭園も素晴らしいと聞きます。元が旅籠屋であったのが何とも不思議に思える料理旅館でした。

親鸞の旅姿像が建つのが豊満寺。鎌倉時代初期にいち早く真宗に転じたとされ、蓮如上人御影道中（帰路）の定宿でもあります。

中山道3宿をもつ米原ですが、ここではまた違う歴史の匂いを感じたひと時でした。

## ◆ 豊郷小学校旧校舎群特別見学コース

近江八幡観光ボランティアガイド協会 青木 紀夫

豊郷小学校旧校舎群は、豊郷町先人の古川鉄治郎氏の私財3分の2に相当する寄進により、1937年（昭和12年）に建設されました。アメリカ人建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズ氏的设计による堂々たる美しい施設であり「白亜の教育殿堂」「東洋一の小学校」として長く町民に愛されて、旧校舎群をまちの活動拠点として位置づけ、町内外に発信されてきました。当日は、当協会から41名が参加して2班に分かれて、通常見学できない特別公開エリアである理科室・理科準備室・復元教室・貴賓室・屋上のエリアを地元ガイド「扇会」の方から詳しく説明・案内していただきました。当時の小学校としては、考えられない珍しい鉄筋コンクリート造で、約4万㎡の敷地にプール・講堂・独立した図書館・ラジエーターを通した集中暖房・水洗トイレを有する施設。また、最高級の教材を配備は

ヴォーリズ建築としての建築ファンだけでなく、「アニメの聖地として世界からも幅広く、来訪者が絶えません」との説明を聞き、非常に興味深く、使う人（当時の生徒）に配慮され、充実した施設であるあと改めて思いました。



最後になりましたが、当日、私たちを迎えていただき、お世話をさせていただきました地元、豊郷町「扇会」の皆様にお礼申し上げます。お陰様で有意義な研修をさせていただくことができました。有り難うございました。

## ◆ 中山道ミニウォーク

守山市ボランティア観光ガイド協会 中務 正人



当日は曇り空の下、当ガイド協会の7名が「豊郷Bコース」に参加いたしました。

最初に「世界灌漑施設遺産」に申請している蒸気ポンプを利用した「龍ヶ池の揚水場」を見学しました。このポンプはイギリスのアーレン社製で明治43年に導入された日本最初期のものとのことでした。大正13年にポンプの動力源が電気に代わる迄使用されていましたが、現在は豊郷小学校旧校舎に展示されていました。現物は今でも稼働が出来る位に整備されており、この蒸気ポンプが大切

に保存されている様子が良く分かりました。昭和12年に建築された旧校舎には、当時から全ての部屋に温水パイプによる暖房設備が完備されていたと説明を受け、これには大変驚きました。講堂の床面は舞台に対し下りのスロープになっており、後ろの椅子に座る生徒たちにも舞台上の様子が良く見える構造になっているのには感心いたしました。

行基が奈良時代に建立した唯念寺の傍らにある「蛇池」の伝承をもとにした「雨乞い蛇の神事」の紙芝居を見学しましたが、神事の起源が良く分かる紙芝居でした。この神事は12年に1回の辰年に行われており、今年は11月9日の夕刻に池波神社⇒蛇屋敷⇒唯念寺を12mの蛇を担ぎ練り歩く神事が行われます。

## ◆ 高虎・甲良豊後守・勝楽寺コース

草津市観光ボランティアガイド 高橋 小百合



草津市観光ボランティアガイドは甲良町Bコース「甲良三大偉人のふるさとを訪ねる」を現地研修に選びました。

まず佐々木道誉が建立した勝楽寺を訪ね墓前で佐々木家の家系図や家紋の説明から始まりました。足利尊氏に従って活躍し室町幕府の重鎮となる一方、派手で傍若無人だった道誉は「パスラ大名」と呼ばれたそうです。

続いて訪れた在土高虎公園はこの地に生まれた藤堂高虎の勇壮な騎乗姿の銅像がシンボルマークです。徳川家の重臣として仕えた高虎は江戸城築城など築城技術にも優れ「築城の名人」と呼ばれました。大阪城の

再建に使われる予定だった高虎ゆかりの残念石は圧倒的な存在感があります。高虎は主君を次々と変えていったので裏切り者という評価もありますが、自分の夢を実現するため誰に従うべきか先を読んで行動したのだと語られました。

最後に訪れたのは甲良豊後守宗廣（ぶんごのかみむねひろ）記念館です。甲良大工と呼ばれる宮大工集団が住む地に生まれた宗廣は、やがてその腕を徳川家康に見込まれて幕府普請方大棟梁となります。家康の死後日光東照宮の大造営を命じられ、莫大な工事費をかけしかもわずか1年5か月で完成させています。

佐々木道誉、藤堂高虎、甲良豊後守宗廣の「甲良三大偉人」とゆかりのある甲良町のすごさを感じた現地研修となりました。

地元愛あふれる甲良町せせらぎガイドの皆さん本当にありがとうございました。

## ◆ 胡宮神社・敏満寺城跡コース

NPO 法人 長浜観光ボランティアガイド協会 副理事長 山崎 喜世雄

多賀サービスエリアで昼食を済ませ、私たちは胡宮神社と敏満寺城跡を目指して徒歩で出発した。胡宮神社へは下りサービスエリア内から直接通じる道がある。かつて敏満寺伽藍が展開していた森の小径を通り、ちょうど神社の裏参道に出た。そこで、多賀観光ボランティアガイドの皆さんが迎えてくれた。

胡宮神社の本殿・拝殿から唐門、大日堂、観音堂と福寿院庭園を見学した。印象的だったのは、観音堂の自然石に彫られた観音像だった。地面から突出した岩観音を包むように観音堂が作られている。

ガイドさんが最も興奮して案内してくれたのは福寿院庭園の池周辺の木々枝にあったモリアオガエルの卵塊だった。無数の白い卵塊は胡宮神社の杜が自然豊かであることを雄弁に物語っていた。胡宮神社の境内は初夏の柔らかい日差しの中でモミジの緑の

枝がしなやかに伸びていた。秋の紅葉はさぞ見応えがあることを十分に想像させるものだった。

敏満寺城跡は、再び多賀サービスエリアの中に戻り、上下線をつなぐ長い歩道橋を渡った先にあった。ちょうどドッグランがあるあたりが敏満寺城の曲輪にあたり、そこから周囲を見渡すと土塁に囲まれていることがよくわかった。

今回、私たちは多賀ガイドの4名の方にご案内いただいた。胡宮神社・敏満寺の広いエリアをカバーするのは至難であろうと思われたが、効率よく分担されており、詳しい資料をご提供いただいたの丁寧なガイドぶりに感激し、また楽しめた。



## ◆ 彦根城下町コース

彦根ボランティアガイド協会 知田善共

彦根での現地研修は古都おおつ観光ボランティアガイドの会の方を案内しました。6名様は彦根城・玄宮園、4名様は彦根城下町に別れました。私は彦根城下町コースを案内しましたが、彦根城コースに比べて観光客が少ない穴場的要素のある場所です。少人数のため、道中は和気あいあいと交流ができました。

中堀のいは松から開始し、城内を通過して浄土宗・宗安寺を訪ね、足軽屋敷・外堀跡・芹川・伝馬町・武家屋敷へと場所を移動しながら、いは松に戻りヒアリングを行いました。

宗安寺は朝鮮通信使の正使（高官）の宿舎にあてられた最も重要な寺で、赤門と食材搬入の黒門を学習していただきました。次に、足軽屋敷辻番所の役割と特徴を勉強していただきました。芹川の「櫓道」を歩き、彦根城下町の防御について学んでいただきました。特別史跡に追加された外堀の土塁跡を見てから水の流れと彦根城の防御について知り、伝馬町では、「問屋場」・「高札場」を説明して午前中の講演の復習体験ができました。



足軽屋敷辻番所



芹川堤櫓道

ガイドの後でのヒアリングで話題になった日頃の課題は次の通りでした。

- 1) ガイドの人数はいるが、ガイドできないスキルの問題がある。
- 2) 京都・大阪との違いを出し、滋賀の楽しさを知らせる必要がある。
- 3) 観光コースの良さはネットで調べられるため、面白いウラ話が必要である。
- 4) 宿場町の講演は分かりやすく楽しめた。滋賀の寺院・仏閣の講演も聞いてみたい。
- 5) 今回案内されて、彦根の良さを知ることができた。

# TOPICS

## 浮世絵 御上洛東海道 水口宿

みなくち観光ボランティアガイド部 吉田 泉

幕末の文久3年第14代将軍家茂は、権威の衰えた幕府を立て直すため、第3代将軍家光以来の上洛を230年ぶりに行います。3千人余の武装行列は幕末の世を騒がせます。絵師たちは、江戸から京都間の東海道各宿の上洛の情景を描きました。殆どの宿は隊列の行進の絵ですが、水口宿は町娘と槍持ちが会話している人情味あふれる絵になっています。

場所は水口城の正門辺りです。小坂町の御馳走屋敷口御門前で行列が休憩しているところです。家茂はこの御馳走屋敷で宿泊ではなく休憩をしたようです。水口城は将軍家光が上洛のための宿館として、寛永11年に建てたお茶御殿です。家光は3回上洛をしており3回目の上洛を最後にこの時、30万人の大軍を率いて幕府の権威を見つけ朝廷より上位にたちました。そして家光は京都からの帰りに水口城に宿泊しました。このたったの1泊だけで、以後230年間どの将軍も上洛はしませんでした。そして、今回の家茂の上洛で同じ場所での休憩です。徳川の終焉を思わせる、権威の歴然とした家光と家茂との対比が興味あるところです。



## 高島市マキノ町のメタセコイア並木について

マキノまちづくりネットワークセンター 川添 宏司

高島市は琵琶湖の北西部に位置し、福井県に隣接したところです。特にマキノ町は自然に恵まれた地域で、四季折々の景色が楽しめ、多くの観光客が訪れます。

今、特に人気を集めているメタセコイア並木の誕生と歴史的背景についてご案内します。メタセコイア並木はマキノピックランドにあります。この地域は野坂山地の扇状地で砂礫層の土質のため、水田としての活用ができず平地林として薪炭材の伐採に使われていました。この土地の活用法について昭和41年に「マキノ町のモデル農業経営の創出」を目的に栗園として開拓されました。昭和46年にマキノ観光栗園として開園。同園は敷地も広く交通アクセスがよくないため、管理地内を南北に結ぶ町道を整備し、交通アクセスの改善を図り、昭和56年その道沿い2.4kmに500本のメタセコイアが、景観と栗の木の防風林を目的として植樹されたのが始まりです。平成6年にメタセコイア並木が新日本街路樹百景に選定されました。栗園は年に一度しか集客ができず、平成8年に総合果樹園化を目指し、平成11年にマキノピックランドとして営業。さくらんぼ、ブルーベリー、リンゴと四季を通じて楽しめる場所となりました。平成15年に韓国ドラマ「冬のソナタ」でメタセコイアが一段と脚光を浴びSNS等で全国的に拡散し現在の人気となっています。平成22年には日本紅葉の名所百選に選ばれました。四季折々の変化を楽しみにお越しください。



## 編集後記

湖東ブロックで開催されました今年6月の交流研修会は、式典を豊郷町文化ホール（豊栄のさと）で、現地研修をブロック内の5市町10コースで実施するなど、これまでにない取り組みをしていただきました。今後の交流研修会を開催するにあたり、他のブロックの皆さんに大変参考になったと思います。関係者の皆さんには大変お世話になり、ありがとうございました。

また、広報部会の選定により、参加・案内されました6名に見開きページに各コースの報告を執筆いただきました。お忙しいなか、ありがとうございました。

今後とも協議会の運営にご協力、ご支援をお願いします。

(事務局)

## お問い合わせ

淡海観光ボランティアガイド連絡協議会事務局（（公社）びわこビジターズビューロー内）担当：船橋・知田  
〒520-0806 大津市打出浜2番1号「コラボしが21」6階 TEL077-511-1530/FAX077-526-4393